

卷 頭 言

臨床心理士・公認心理師の養成における研究の意義

～臨床体験と知識をつなぎあわせるものとして～

桑 野 裕 子

今年度は、2021年3月に第2期の公認心理師カリキュラム修了生を送り出し、本専攻でもほっと一息ついたところである。本専攻では、公認心理師と臨床心理士の2つの受験資格を取得可能であり、2021年3月に卒業した学生の多くが公認心理師と臨床心理士の両受験資格を取得しての卒業となった。両資格の受験資格を取得するためには、授業科目もそうではあるが、実習時間が大幅に増加したという特徴があるように思う。特に公認心理師の実習に関しては、実習施設を学生が自由に決めることはできず、文部科学省と厚生労働省が定めた様々な基準を満たし、大学が届出を出している施設での実習のみしか実習時間として認めることができないという規定がある。

このような実習の規定や授業科目の増加に、カリキュラムの充実感や豊かさを感じ、現在の院生たちを大変羨ましく感じることもしばしばである。豊富な実習時間や実践の場での体験の機会は、資格取得後、即戦力として働いていくためには必要なことであり、貴重な体験であることは言うまでもない。しかし一方で、実習や講義に追われ、体験や知識が未消化のまま実習施設と大学を往復する姿を目にすることもあり、少し複雑な気持ちになることもある。そのような院生たちを目にする時、「もう少し悩む時間があればいいのだけれど……」とふと感じてしまうこともある。

というのも、私自身の院生時代を振り返ってみると、悩みと迷いの連続だったように思う。大学院附属の相談センターではケースを担当することにいつまでも自信が持てず、何度も担当を辞退する中、ついに「もうケースを1つも担

当していないのはあなただけですよ」と言われて観念したり、修士論文の中間発表会の前にどうしても抄録が書けずにゼミで号泣し、そのまま帰省してしまったり。当時指導をして下さっていた先生方には本当に申し訳ない記憶しかない。ただそのような「悩む時間」や「迷う時間」そして「考える時間」が許されていたことで、ゆっくりと自分の心理臨床家としての在り方や今後の方向性を模索することができたようにも感じている。そのような自分の体験を振り返ると、現在の院生たちにももう少しだけゆっくりと学び、成長する時間を持たせてあげたいような気持ちが起こってしまうことは否めない。

さて、そのような過密なカリキュラムをこなす院生たちには、修士論文という更なる課題がある。たくさんの講義科目や実習があれば、修士論文を負担に感じる院生もいるかもしれない。しかし、臨床心理士の専門業務には以下に示す4つの業務を挙げられている。(公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会監修(2021)より)

1. 臨床心理査定
2. 臨床心理面接
3. 臨床心理地域援助
4. 上記1～3に関する調査・研究・発表

大学院生が論文を作成することは、4つ目の専門業務を行えるようになるためにも必要不可欠なことと言えるであろう。それでは「ただ専門業務をこなせるようになるためだけに研究を行うことが必要か?」というと、必ずしもそうではないように思う。

卒業研究や修士論文は、自分自身の成長にま

つわるテーマや心理臨床家を志した動機と密接にかかわることが少なくない。そのようなプロセス経ながら作成される論文は、自分自身の心と向き合う非常に大切な機会でもあり、心理臨床家としての核をつくる重要なトレーニングになりうると思う。更に一度始まったそのプロセスは、資格取得後にも続いていくように思う。そしてそれはもちろん公認心理師においても同様であると言えるであろう。坂東（2018）は、公認心理師の生涯学習の実践においても「研究への興味・関心を何らかの形で継続していくこと」の重要性を指摘している。また上記のような観点から考えると公認心理師においても、研究を行うことは「資質向上の責務（公認心理師法第43条）」を果たす上で重要なことであると考えられる。

更に心理臨床の実践の場で働く中での体験を振り返り、吟味しながら「書く」という作業によって作り出された論文は、自分自身のためだけでなく、自分以外の心理臨床家にとっても

役立つものとなるだろう。またそれらを作成する中で起こる自身の内省や気づきは、体験と知識をつなげ、自身のなかでより豊かな能力となり実践に活かされることになると思われる。

上記の点を踏まえると、臨床心理士・公認心理師の養成において研究を行うこと、また臨床心理士・公認心理師が研究を続けることは、多くの心理臨床家のためにも自分自身が専門職として働き続けるためにも大変重要なことであると考えられる。この紀要がその一つの場所となると幸いである。

【参考文献】

- ・公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会監修（2021）新・臨床心理士になるために〔令和3年版〕 誠信書房。
- ・坂東充彦（2018）第11章 生涯学習への準備（野島和彦編（2018）公認心理師の基礎と実践①〔第1巻〕公認心理師の職責 遠見書房より）